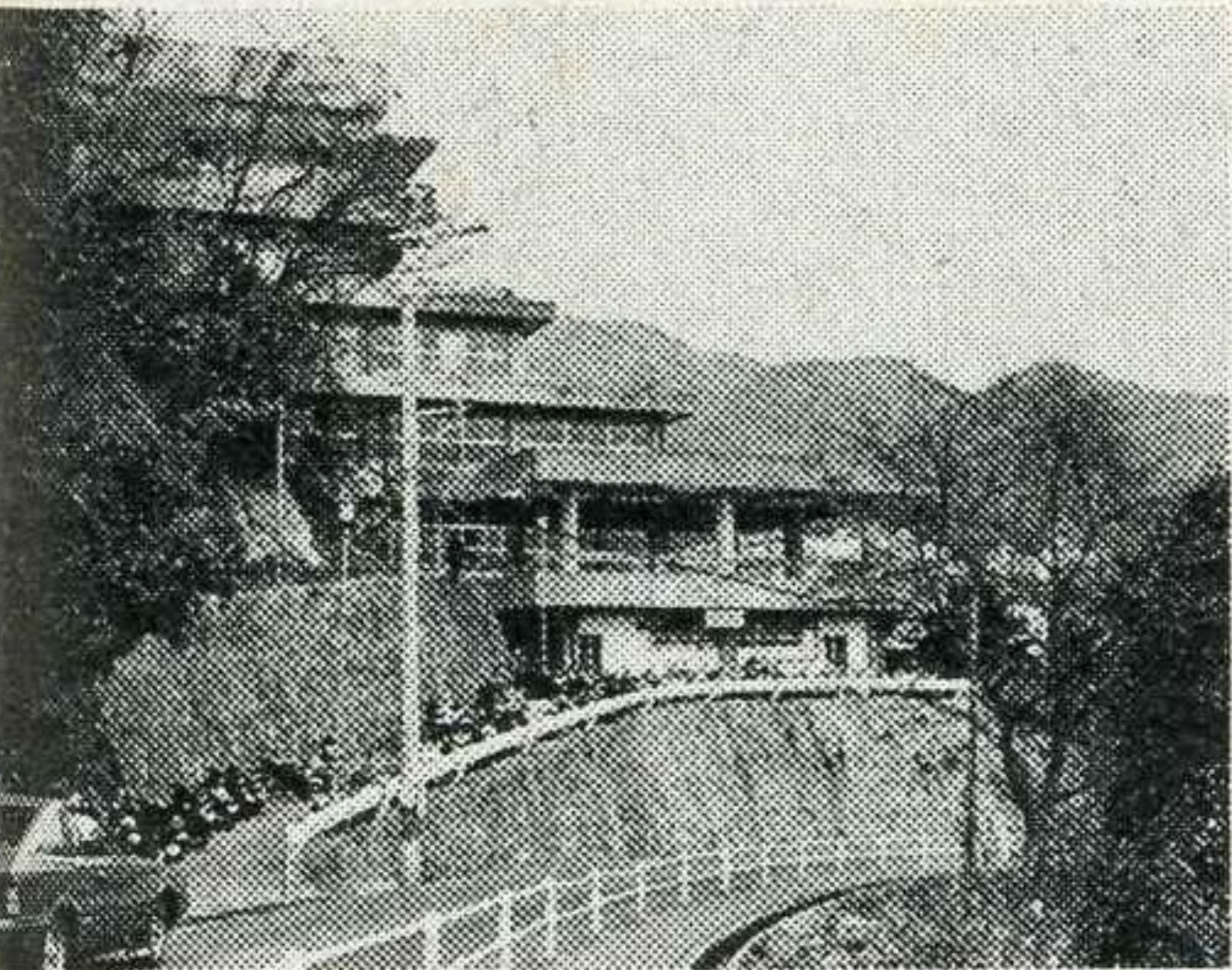
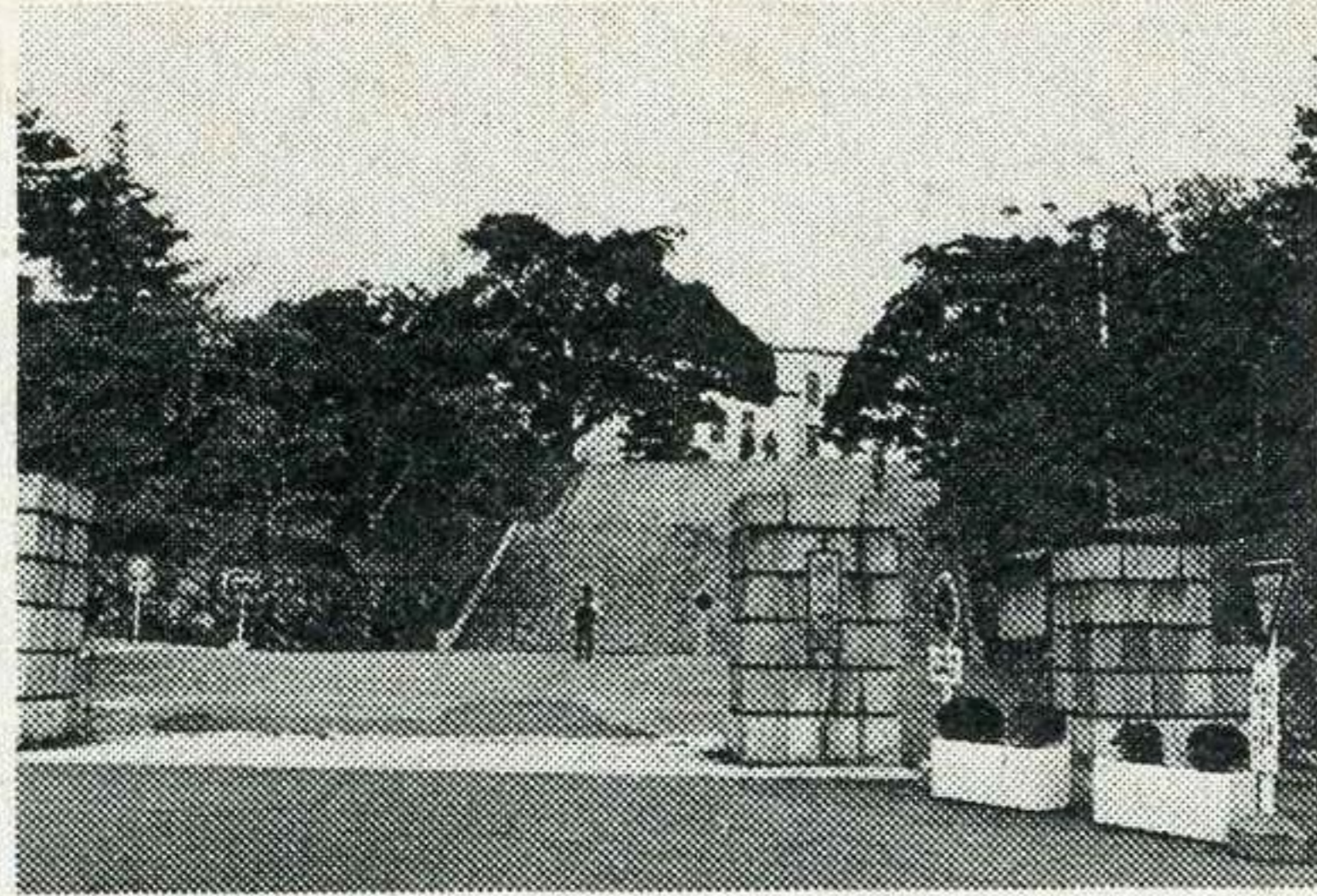


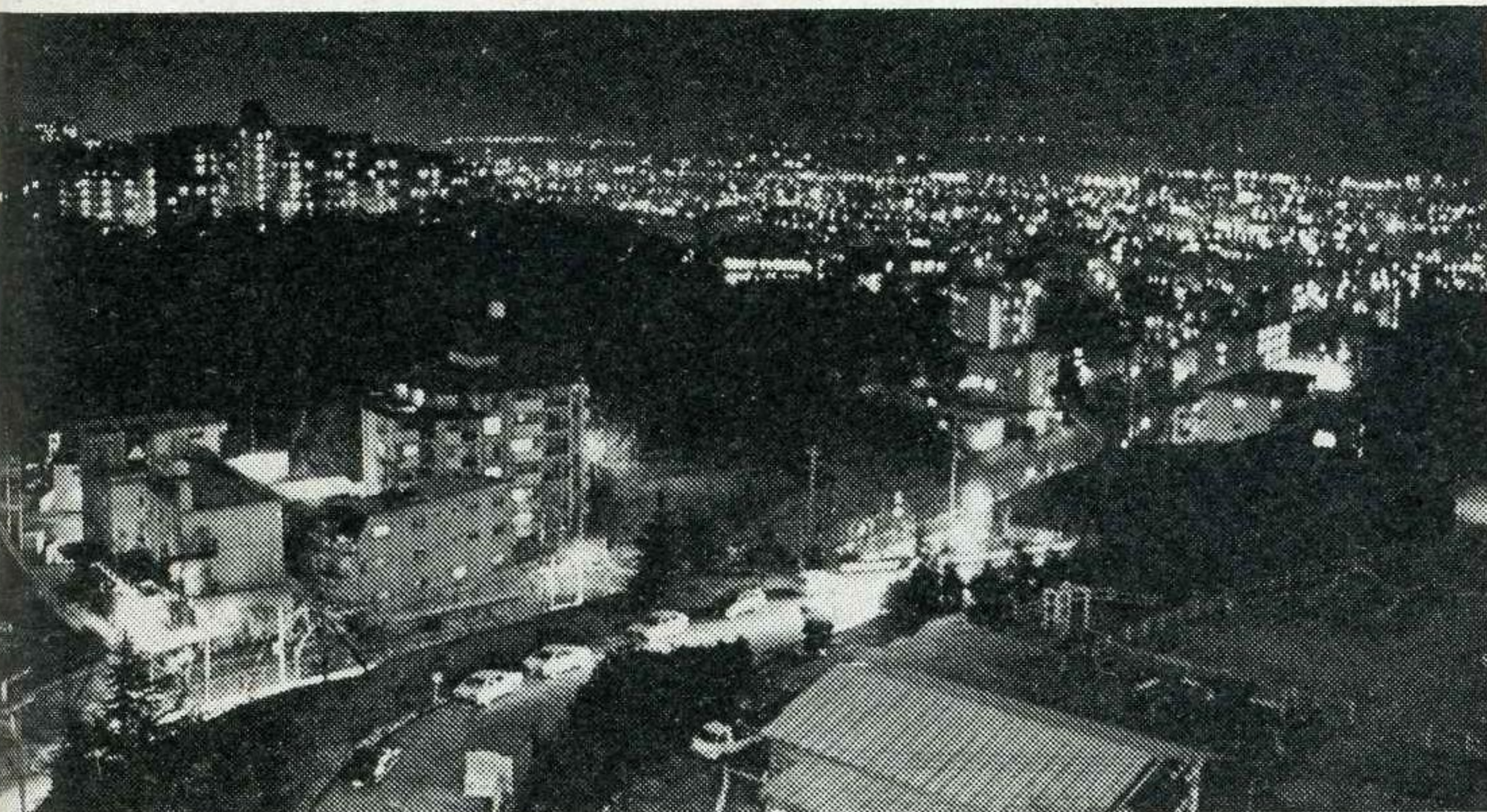
神戸大学交響楽団



▲練習場になっている学生会館



▲静かなたたずまいの神戸大学正門



▲とてもロマンチックな神戸の夜景。カラーでお見せできなくて残念



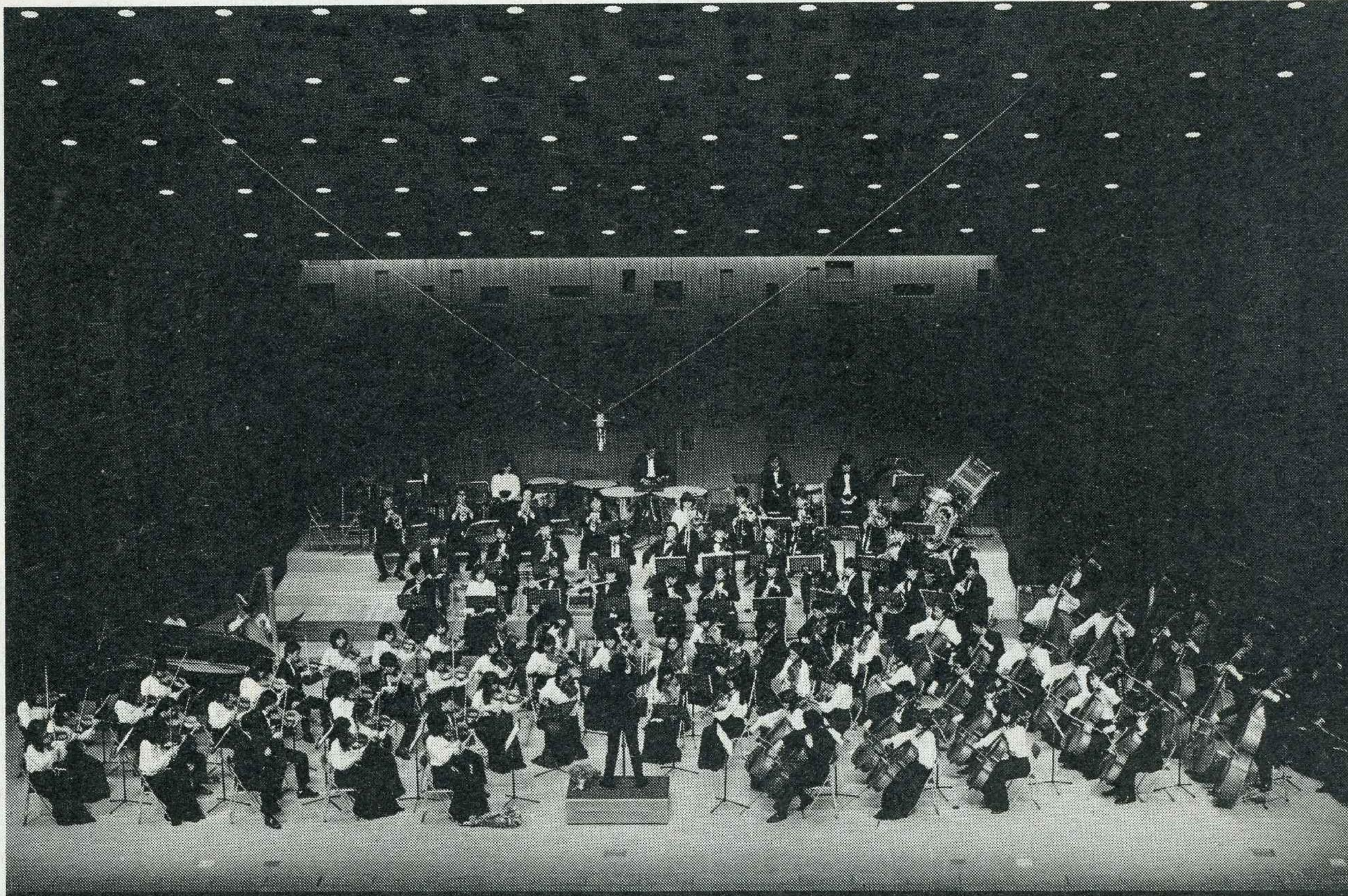
▲コンマスの千布聡子さん。「感想? まだ実感なしよ」



▲三輪千津子リーダー率いる「生命力逞しい」チェロパート



▲「われら木管ファミリー、よろしく」



▲昨年の12月15日にアルカイクホールで開かれた第34回定期演奏会。メインは岡田司指揮のシヨスタコ5番



▲冷たい六甲風も何のその。手袋に注目



▲叩けば体も暖まる



▲神大オケのトレーナー。スコアはナニ?



▲練習熱心なオーボエ



▲井原リーダー率いるホルンパート



▲「芦田先輩がいなくなって…嬉しい」だって

昨年の12月15日、尼崎市のアルカイクホールで開かれた第34回定期演奏会を無事に終え、4回生は現役引退。神戸大学交響楽団は役員も新たにサマーコンサートに向けて、活動を開拓しました。現在の団員数は約80人。毎年30〜40人ほどの新団員が望めるので、春には120人ほどのオーケストラが誕生するはず。神大オケの特徴は、ストヴァイトフルート、クラは経験者でないとパートに参加できないこと。それが影響してか、4回生の抜けたあとのストヴァイトは4人。4月には何としてもヴァイオリンの経験者を迎えたいとね! 練習を聞かせていただいた限りでは、低弦部も充実していて、安定した響き。サマコンでチャイコの4番がどのように響きわたるか、とても楽しみです。レパートリーとしては、他にベートーヴェン、ブラームス、ドヴォルザークなどが中心。神戸っ子らしいスマートさが魅力です。 (編集部)

■「日本のベルリン・フィル」を目指して
 晴れた日には、遠く紀伊半島や淡路島まで一望のもとに見下ろせる六甲の高台に、神戸大学はある。その一角に、斜面にへばりついたような階段状の建物がある。神戸大学交響楽団(通称・神大オケ)の巣窟、学生会館(通称・学館)である。毎日朝早くから夜遅くまで、楽器の音の絶えることがない。中には、いつ来ても必ずその姿があるために「学館の主」と呼ばれ、畏怖の目で見られる者もいる。

神大オケは長い伝統を誇り、今年で創立70周年を迎えた。そのこともあって、ここ数年団員の意気は非常に盛んで、活発な活動を続けている。昨年の場合をみると、サマー・コンサートにおいて、守山俊吾先生の指揮によりガラスノフの交響曲第5番を演奏した。この曲は、新交響楽団(現N響)の日本初演以来、日本のオーケストラによっては演奏されず、「50年ぶりの再演」として話題となり、演奏の方も好評を博した。また、定期演奏会ではシヨスタコーヴィチの交響曲第5番をとりあげるなど、アマチュアでは演奏されるこ



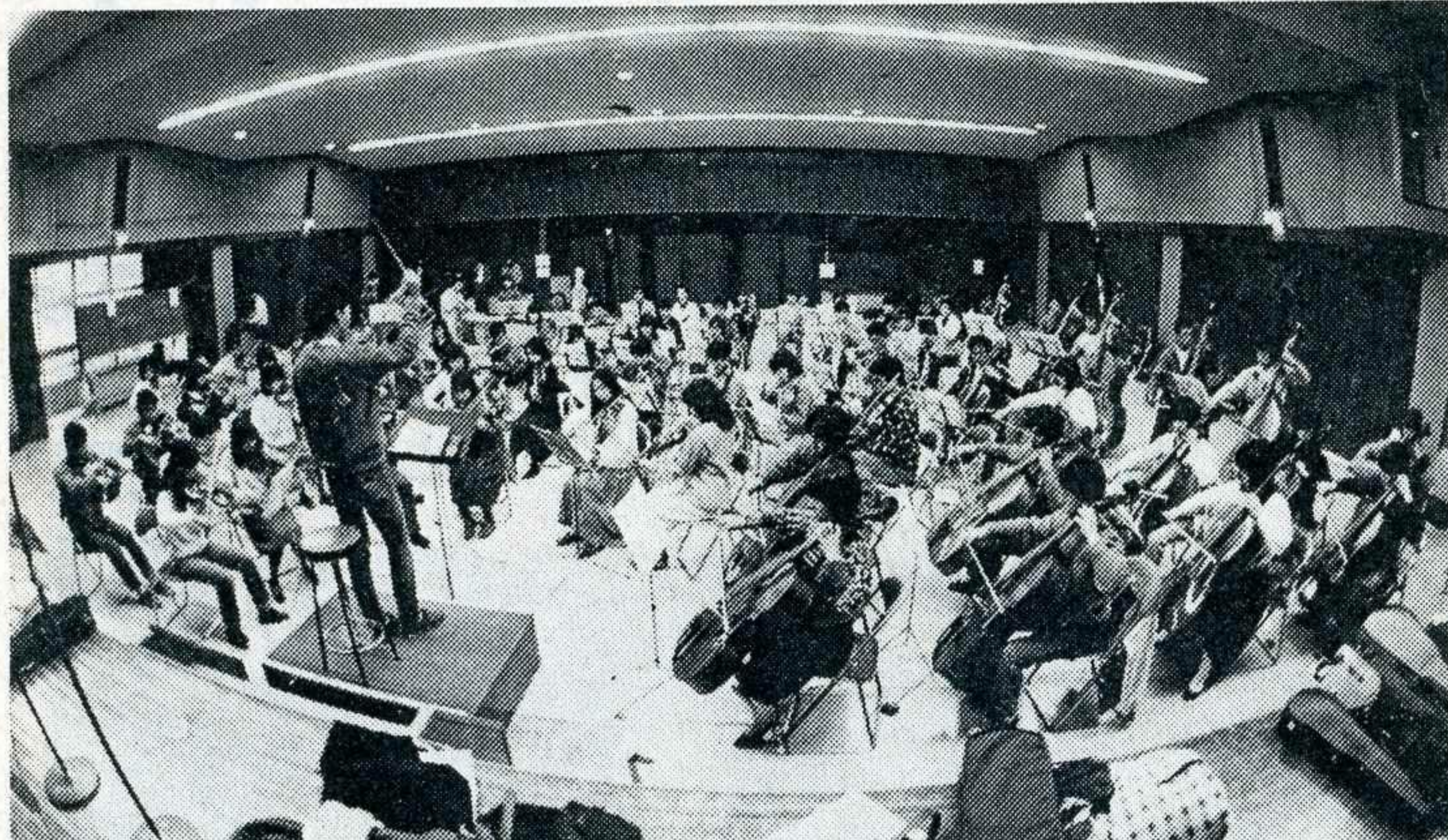
▲本来ヴィオラは根暗なのに神大オケはそうでないところが特徴



▲トロンボーンの紅一点は吉田文子さん



▲ストヴァイはエリート集団。経験者でないとダメ。だから現在4人です



▲学館6階のホール。夏は暖房、冬は冷房完備。でも頑張ってます



▲神女薬、神女院、親和女の人もいます



▲花のセコヴァイ。中央はリーダーの後藤君



▲首を振り、腰を振っての大熱演がコンパスの特徴とか



▲現役引退の4回生を交えて。左から2番目が団長の谷林君



▲神大オケのメンバーは、みんな気のいい仲間たち。「あまりに飲んで騒ぐので、同じ所で合宿できないとか」。飲みすぎに注意！



学指揮の三田村君。「練習の進め方、難しい」

との少ない曲にも積極的に挑んでいる。さらに中高生を対象とする音楽鑑賞会や各地の合唱祭への賛助出演など、地域に根ざした活動も精力的に行なっている。その他には、話題となったカラヤン指揮ベルリン・フィル来日公演に際し、ザ・シンフォニーホールにおいてベルリン・フィルの代役としてカメラ・リハーサルを行ない、カラヤン氏直々にお言葉をいただくという光栄にも浴した。これ以後、名実ともに「日本のベルリン・フィル」を名ざして猛練習が始まったことは言うまでもない(?)。

ところで、我々の悩みは専用練習場がないことである。全体での練習はもっぱら学館の6階ホールを使用するが、週3日しか使えないので、弦・木管楽器はいつも学館の廊下や階段にひしめて練習をしている。金管楽器にいたっては外でせざるをえないため、近所から騒音の苦情が来るし、夏は蚊に悩まされ、冬は六甲おろしを受け、悲惨な状況である。しかし、若者はそんなことでくじけはしない。毎日6階までの階段を昇り降りして基礎体力をつけ、どんな逆境にあっても演奏できる強靱さを養っているのである……。

練習後、心地よい充電感にひたりつつ、仲間と共に坂道を下りながら眺める夜空の星々そして100万ドルの夜景の美しさは格別である。神大オケに与えられた天の恵みと言えよう。

(文責・神戸大学交響楽団)